地域プログラム運営小委員会

地域プログラム運営小委員会は、学部共通プログラム運営委員会の小委員会の 1 つであり、平成 24 年度に開始された「地域課題の総合的探求プログラム」の企画や実施を担当している。平成 30 年度は、プログラムの 7 年目であるが、平成 29 年度の 1 年次生から「人文社会科学部地域志向教育プログラム」の受講がスタートしたため、主に 3 年生、4 年生を対象にプログラムを運営した。

4 年生 12 人に対しプログラム修了生として、卒業時に修了証を授与した。本年度、開講・運営した科目は以下の通りである。

（1）「地域課題入門」（集中講義）

本プログラムの必修科目として、3 年次対象に開講し、平成 31 年 1 月 14 日（祝）、26 日（土）、1 月 27 日（日）の 3 日間で実施した。人文学部 3 年生 3 名、工学部 3 年生 1 名が受講した。

（2）「地域課題特論ⅡA」（前学期）3 年生対象科目

本科目は、本プログラムの受講生が履修するプログラム講義科目である。13 人が受講した。茨城県内で、地域の活性化やまちづくりに取り組む NPO 法人、市民団体などの代表の方たちに講師をつとめていただき、講義を行っていただいたあと、学生の 4 つの班の研究のサポートもお願いした。最後に、まとめとして学生による研究発表会を行った。「地域課題特論ⅠA」で、行政側から、地域課題への取り組み方や解決へのアプローチ等を学んだ学生たちが、本科目では、市民は自分たちの地域の課題にどう取り組み、どのような方法でその解決をはかろうとしているのかを学び、また、学生たち自身が地域の課題を発見できるようになることを目的に、科目を実施・運営した。

（3）「地域課題演習」（後学期）3 年生対象科目

本科目は、本プログラムの受講生が履修するプログラム演習科目である。履修生 6 人がチームを組み、テーマをしぼりながら、研究を行っていった。本授業では、まず、「課題」を設定。2 つのテーマが選択され、各チームがその課題の解決に向けて、基礎的なデータの収集や分析、討論等を通して、課題解決にむすびつくような内容・方向性の確認を行った。

1 月 23 日（水）に中間報告会を開き、新しいカリキュラム「人文社会科学部地域志向教育プログラム」を受講している 2 年次の学生約 50 人、県庁職員等の前で発表した。

春期休業期間にも継続して研究を行い、4 年次前学期に「課題解決のための提案、提言」がまとめられるよう指導し、科目の運営を行った。

（4）「地域課題研究」（前期）4 年生対象科目

本授業では、3 年次後学期での研究を継続し、受講生 14 名が 3 つのチームをつくり、課題解決のための提言をまとめた。対象自治体は、水戸市、笠間市、常陸大宮市で、それぞれ「建築を活かした地域活性化」「観光振興」「買い物難民対策」をまとめ、7 月 18 日（水）に発表会を行い、提案を発表した。

平成 30 年度地域プログラム運営小委員会委員長：西野由希子